

居心地のいいまちつて

どんなまち？



◎まちづくり政策課

☎055・934・4760

沼津の現在

皆さんは、沼津のまちにどのような印象をもっていますか？

沼津は、愛鷹山や沼津アルプスなどの山々や日本一深い駿河湾などの美しい自然、年間166万人が訪れる沼津港をはじめとした豊富な観光資源に恵まれ、高速道路や鉄道網などの優れた交通基盤が整備されるなど、多様な可能性に溢れたまちです。

今から96年前の大正12年に市制が施行されて以来、商工業や教育機関など様々な都市機能が集まり、県東部の拠点都市として発展してきました。しか

社会構造の変化

戦後の高度経済成長によって「まち」の姿も急速に変化していきます。デパートや映画館、商業施設などが林立し、駅前や商店街は多くの人で賑わいまし、増加傾向にあった人口は、平成7年をピークに減少が進み、これまでと同じように都市の活力を成長させ続けるには様々な課題がみられるようになりまし。美しい自然やこれまでに整備されてきたインフラを活かし、まちの活力を保ち続けるため、沼津のまちづくりは大きなターニングポイントを迎えているといえます。

戦後の高度経済成長によって「まち」の姿も急速に変化していきます。デパートや映画館、商業施設などが林立し、駅前や商店街は多くの人で賑わいまし



「ヒト中心のまちづくり」による沼津駅南口駅前広場の再編イメージ(沼津市中心市街地まちづくり戦略会議資料)



1宮城県仙台市定禅寺通りのマーケット 2愛媛県松山市の花園町通り 3兵庫県姫路市の姫路駅前トランジットモール 4宮城県日向市の駅前広場

た。その後、モータリゼーションの進展により、車が社会に広く普及し、商業などの都市機能が郊外に拡散し始まります。すると、これまで賑わっていた「中心市街地」と呼ばれるエリアが空洞化、スポンジ化し、かつての活気が失われてきました。

人口減少の局面を迎え、少子高齢化が進行していくなか「まちづくり」において、駅周辺など地域の拠点に、商業施設や医療・福祉施設などを集約し、公共交通によって各拠点にアクセスしやすい、コンパクトにまとまった都市構造が目玉されるようになっていきます。

車からヒトへ

都市の中心となる拠点には、多くの人が集まるため、このような場所を人が歩いて回遊し、居心地良く過ごせる空間にすることが必要です。今後のまちづくりにおいては、車のために画一的に都市を整えるのではなく、足元のまちなみをヒト中心の豊かな空間として創り出していく視点が大切です。

ヒト中心のまちづくりを進めることは、都市の魅力を高め、多様性を育み、様々な市民が活き活きと暮らせるまちの実現につながります。

これからの沼津のまちづくり

「まちづくり」が全国各地で課題となるなか、本市では、ヒト中心の豊かな空間を目指し、新しいまちづくりが今まさに大きく動き出しています。特に、鉄道高架事業をはじめとする沼津周辺総合整備事業では、線路によって南北に分断されている市街地の一体化や、ストレスなくまちなかを移動できる幹線道路の整備などを進めていきます。人の流れや回遊性が高まり、さらに駅周辺のオープンスペースが充実することで、まちなかにたくさん人の賑わいが生まれることが期待できます。

このようにヒトとモノの動きが大きく変わる今こそ、中心市街地をヒト中心の質の高いまちにしていける大きなチャンスといえます。

このチャンスを活かし、もっと誇れるまちとなっていくために、まちの主役である市民の皆さんとまちづくりの方向性を共有し、連携し、力強く推進していくことが必要です。

沼津に住み続ける私たちだけでなく、今後、沼津を訪れる人、沼津に住む人、沼津で成長していく人たちのためにも、まちづくりに一緒に取り組んでいきましょう。